

ごあいさつ
MESSAGE

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で神戸市は大きな被害をうけました。その震災からの復興事業として始まった「神戸医療産業都市構想」は、取り組み開始から2017年10月で20年目になります。日本最大級のバイオメディカルクラスターとして、理化学研究所をはじめとする研究機関や、高度専門病院群、多数の医療関連企業・団体が集積し、医薬品、医療機器、再生医療、ヘルスケアなどのさまざまな分野で基礎研究から臨床応用、产业化(実用化・商品化・販路拡大)に取り組んでいます。

本シンポジウムは、神戸医療産業都市の中核施設であり、もうすぐ設立から15年を迎える先端医療振興財団 臨床研究情報センター(TRI)が、これまでに支援してきた再生医療開発の中から保険医療として近々お届けできるであろう治療法について、各分野の先生方にご講演いただきます。

現役では、はつらつと生きるために必要である、「聞くこと」「話すこと」「見ること」の再生、そして寝たきりゼロ・要介護ゼロを実現する「脳神経・脊髄再生」「下肢の血管再生」「軟骨の再生」について、実用化の現状を市民のみなさまにお伝えし、そして共に考える機会にしたいと思います。

100歳現役社会に向けて大きな一歩となるシンポジウムです。
みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

(公財)先端医療振興財団 理事長 本庶 佑
(公財)先端医療振興財団 臨床研究情報センター センター長 福島 雅典

寝たきりゼロ…100歳現役社会を生きるアジェンダ

TRIは日本の再生医療開発を強力に支援してきました。
本年からそれらを順次、保険医療として還元します。
100歳現役社会に向けて、大きな一歩を踏み出します。

- 2017年 承認申請見込み
- 近年中承認申請見込み
- 新たなシーズ開発



- 財団設立
- 100歳現役社会を生きるには、コミュニケーション力が必須です。
鼓膜の再生、声の再生、角膜の再生により、「聞く」「話す」「見る」が可能になります！
- 100歳現役社会を生きるため、寝たきりゼロ・要介護ゼロに限りなく近づけます。
脳梗塞、脊髄損傷、バージャー病やASOによる下肢切断、様々な寝たきり・要介護の状態から、神経の再生、血管の再生、軟骨の再生により、「自立」が可能になります！
- 認知症、前立腺がん、動脈硬化
認知症、前立腺がん、動脈硬化の治療に向けて、新しい治療法を開発中です。

会場へのアクセス

神戸ポートピアホテル ポートピアホール

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1
ポートライナー「市民広場駅」から徒歩すぐ

無料シャトルバスがあります

- 「三宮駅」発 〈所要時間約15分〉
毎時 0分 20分 40分 発
 - 「新神戸駅」発 〈所要時間約25分〉
毎時 10分 30分 50分 発
- ホームページからもご確認いただけます。
<http://www.portopia.co.jp/access/bus/>

お申し込み方法

事前登録が必要です

参加登録は[こちらから](http://www.tri-kobe.org)
<http://www.tri-kobe.org>

- 参加費無料(先着1,000名様)
※定員になり次第締め切らせていただきます。

お問い合わせ、お申込みは
市民公開講座参加登録事務局

Tel. 06-6221-5933
(平日 9:30 ~ 17:30)
Fax. 06-6221-5938
kobe100@convention.co.jp

神戸医療産業都市から、 たくさんの医療の芽が生まれています！



公益財団法人先端医療振興財団
臨床研究情報センター(TRI)

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-5-4

市民公開講座参加登録事務局
E-Mail: kobe100@convention.co.jp
TEL.06-6221-5933(平日 9:30 ~ 17:30)



市民向け医療シンポジウム

神戸医療産業都市20周年 & 臨床研究情報センター(TRI)設立15周年 プレイイベント

神戸から、未来へ。 100歳まで現役で生きる！

イキイキと人生を過ごすために「健康寿命」を伸ばしたい。
そんな想いで取り組んできた、医療研究の“芽”を育てる活動が
いよいよ“実”となり、医療の現場で活かされようとしています。
寝たきりゼロなど、「100歳まで現役で活躍できる社会」について
市民の皆様とともに考えるひと時、ぜひお越しください。



2017
10/7 土 13:30~16:00
(開場:13:00~)

会場
神戸ポートピアホテル
ポートピアホール

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1

参加無料
事前申込み必要

※詳しくは裏表紙をご覧ください

PROGRAM

神戸発 100歳現役社会を生きるアジェンダ

神戸医療産業都市20周年 & 臨床研究情報センター(TRI)設立15周年 プレイイベント

2017/10/7(土) (開場:13:00~)
13:30~16:00 会場 神戸ポートピアホテル
ポートピアホール

13:30 ~ 開会の挨拶

玉田 敏郎 (神戸市 副市長)
本庶 佑 (先端医療振興財団 理事長)

13:40 ~ セッション1

「聞く、話す、見る、を再生する」

座長: 空地 顕一 (兵庫県医師会 会長)

▶ 聞こえを取り戻す ~難聴治療の最前線・鼓膜再生医療~
金丸 真一 (北野病院)

▶ 声のつまり、ふるえ、途切れを改善する治療法の開発
讚岐 徹治 (熊本大学)

▶ 角膜再生による眼疾患治療 ~光を取り戻すためのチャレンジ~
外園 千恵 (京都府立医科大学)

▶ Q & A

休憩

14:45 ~ セッション2

「寝たきりゼロ社会への道」

座長: 置塙 隆 (神戸市医師会 会長)

▶ 脳梗塞と脊髄損傷の再生医療 ~医師主導治験による実用化~
佐々木 祐典 (札幌医科大学)

▶ 足の血管再生治療:下肢切断を回避し、自分の足で歩ける毎日を!
川本 篤彦 (先端医療振興財団 臨床研究情報センター(TRI))

▶ 骨と関節の再生医療
黒田 良祐 (神戸大学)

▶ Q & A

閉会の挨拶

福島 雅典 (先端医療振興財団 臨床研究情報センター(TRI) センター長)

MESSAGE

MESSAGE

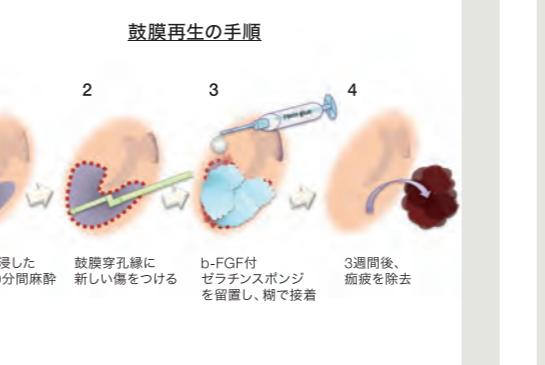
01



金丸 真一 北野病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
主任部長

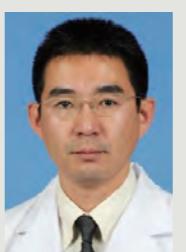
聞こえを取り戻す ~難聴治療の最前線・鼓膜再生医療~

鼓膜は、やぶれても自然に治ることが多い組織の一つです。つまりそれだけ再生力が強いと言えます。しかし、孔が大きかったり周りの環境が悪かったりすると、再生せずに孔が残ります。鼓膜再生医療は、この旺盛な再生力を利用しています。鼓膜の穴の周囲を傷つけ再生の源になる細胞の増殖を促します。新しく生れた細胞をしっかり伸ばしてやるために栄養(成長因子)を付いた足場(ゼラチンスポンジ)で鼓膜の穴を塞ぎます。その上を医療用接着剤でカバーし再生環境を整えます。通常は3週間で再生し、正常な鼓膜と理想的な聽力回復が得られます。わずか20分ほどの施術でどこも切らず、傷跡もいっさいない、まさに夢の治療です。



MESSAGE

04



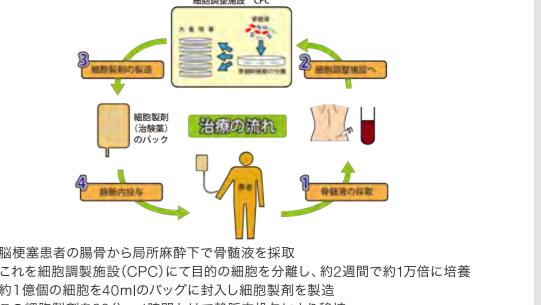
佐々木 祐典 札幌医科大学 医学部 附属フロンティア医学研究所
神経再生医学部門 講師

脳梗塞と脊髄損傷の再生医療 ~医師主導治験による実用化~

我々は1990年代から、骨髓由来の間葉系幹細胞(mesenchymal stem cell: MSC)の経静脈的移植による治療効果を、脊髄損傷を含む神経疾患に対して検証してきました。これまでの良好な結果を受けて、現在、脳梗塞と脊髄損傷に対し、静脈投与による自己培養MSCを、薬機法下で再生医療等製品として薬事承認を受けることを目指しています。特に、2016年2月には厚生労働省の再生医療等製品の先駆け審査指定制度の対象品目の指定を受け、実用化への期待が高まっています。

<http://web.sapmed.ac.jp/saisei/index.php>

自家骨髓間葉系幹細胞(MSC)による治療



MESSAGE

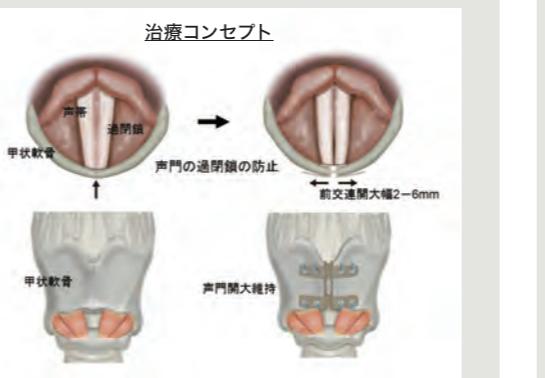
02



讃岐 徹治 熊本大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
講師

声のつまり、ふるえ、途切れを改善する治療法の開発

痙攣性发声障害は、「局所性ジストニア」の一種と考えられ、喉頭筋の痙攣様異常運動により発声中の声の詰まりや途切れ、震えをきたす原因不明の難治性疾患です。現在のところ本症に対する根本的な治療はありません。チタンブリッジを用いた甲状腺骨形成術2型は、発声時に内喉頭筋が不随意的、断続的に強く内転することで声門が過閉鎖し症状が発現することに着目し、発声時に声門が強く内転しても声帯が強く閉まらないように甲状腺骨を正中に切開し、両側甲状披裂筋の付着部を甲状腺骨ごと外側に広げて固定する術式です(図)。その後の臨床経験から有効性が報告され、手術成功に必要な新規医療機器チタンブリッジの薬事承認と治療法の普及を目的に開発を行っています。



MESSAGE

05



川本 篤彦 先端医療振興財団 臨床研究情報センター 副センター長
兼 先端医療センター 再生治療ユニット長、血管再生科部長

足の血管再生治療:下肢切断を回避し、自分の足で歩ける毎日を!

骨髄の中には血管の幹細胞がたくさんあります。私たちが実施している足の血管再生治療では、足に重症の血流障害のある患者さんに対して、血管の幹細胞を骨髄から血液の中へ引き出す効果のあるお薬を5日間皮下注射してから、血液中の幹細胞を体外に取り出します。そして、純粋な幹細胞だけを患者さんの足の筋肉に注射して、足の血流障害を改善させます。これまでの臨床研究・治験で、足の切断を予防し、自分の足で歩き続けることができる多くの患者さんで確かめてきました。これまでの成果をもとに、足の血管再生治療は、あと一步で保険診療に辿り着けるところまでできています。



MESSAGE

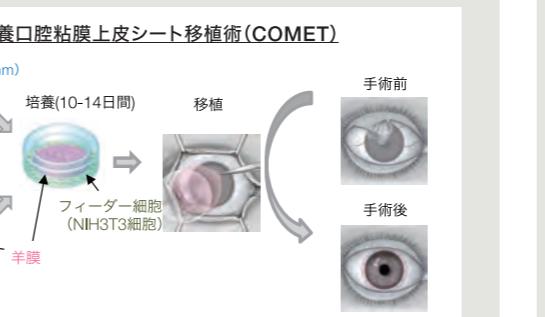
03



外園 千恵 京都府立医科大学 眼科学教室
教授

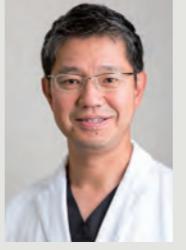
角膜再生による眼疾患治療 ~光を取り戻すためのチャレンジ~

ものが「見える」ためには、光の入り口である角膜(くろめ)が透明でなければなりません。化学薬品が眼に入ったり(化学外傷)、難病のひとつであるスティーヴンス・ジョンソン症候群(SJS)に罹患すると、角膜上皮の幹細胞がなくなってしまって結膜(しろめ)の上皮が角膜を覆って著しい視力障害を引き起します。これまで良い治療法がありませんでしたが、2002年に「培養自家口腔粘膜上皮シート移植」に成功し、混濁した上皮を患者さん自身の細胞で作った粘膜上皮に入れ替えることで視力改善が可能になりました。またSJS用の医療機器として「輪部支持型ハードコンタクトレンズ」を開発し、平成28年2月に薬事承認を得ました。培養自家口腔粘膜上皮シート移植と輪部支持型ハードコンタクトレンズを組み合わせれば、相乗的に視力改善の効果を得ることができます。現在は「培養自家口腔粘膜上皮シート移植」の薬事申請を目指しています。



MESSAGE

06



黒田 良祐 神戸大学 医学部整形外科
診療科長 教授

骨と関節の再生医療

再生医療は細胞の自然治癒力を活用して、治療が難しいとされていた病気を根本的に治癒しようとするものです。山中伸弥教授によるiPS細胞の開発以来、再生医療の実用化が加速しています。整形外科は脊椎、四肢関節など運動器を再建・再生する分野です。再生医療の基礎研究の発展とともに、関節や骨の再生治療が開発されています。運動器の完全再生を目指して、我々は難治性骨折や関節軟骨損傷などの現行の治療では治癒困難な疾患に対し、再生治療の臨床研究や医師主導治験を行っています。今回のシンポジウムでは、再生医療の実施例や最新の再生医療の話題をご紹介します。

